

令和 5 年度

「いわての復興教育」

実践事例集



令和 6 年 3 月
岩手県教育委員会

「学校安全総合支援事業」(いわての復興教育スクール〈内陸〉) 実践事例

学校名：盛岡市立中野小学校

I 事業の概要 (地域の実情含む)

本学区は、盛岡市中心部の南東に位置し、旧南部藩時代には茶の畑があった地で、市内では温暖な所である。学区南方には北上川と築川の合流地点があり、肥沃な土地と小高い山々に囲まれた地である。

校舎のすぐ横を流れる築川は、台風期の豪雨によりこれまで度々洪水の被害を受けてきた。そのため、本地域で起こり得る危険を知り、危険発生時には自らの生命や身体を守るために、自ら判断して対処できる力を育成する必要があると考え、中学校区の3校で連携し、復興防災教育に取り組むこととした。

II 取組の概要

1 避難訓練

(1) 避難訓練① (火災) 【4月20日】

震度5強の地震のあと、校舎内で発生した火災を想定し、放送の指示で校庭に避難した。教室から校庭までの避難経路や火災の際の安全な避難の仕方について確認しながら避難した。どの児童も担任の指示に従い、真剣に行動した。

(2) 緊急時引渡し訓練 (防災) 【6月5日】

本校として初めて保護者への引渡し訓練を行った。児童在校時に災害等の緊急事態が発生したと想定し、児童の下校の安全確保のため、メール配信による連絡に基づき保護者が来校し、児童を引き取る訓練を実施した。一部参加できなかった保護者もいたが、概ね順調に目的を達成できた。

(3) 避難訓練② (不審者対応) 【6月7日】

清掃時間中に校地内に不審者の侵入があったことを想定し、児童へ危険を知らせる「中野タイム」の放送で教室等へ避難する訓練を実施した。事前に「中野タイム」の放送の意味を確認し、避難した部屋で安全を確保し、静かに落ち着いて待つことなど、不審者が侵入した際の身を守る行動の仕方について訓練を行った。混乱もなく、真剣に訓練できた。

(4) 避難訓練③ (地震) 【9月1日】

盛岡市シェイクアウト訓練に合わせて地震発

生を想定した訓練を行った。

シェイクアウトの放送に従って地震から身を守る訓練を行ったあと、余震が心配されるため校庭に避難する訓練を実施した。どの児童も放送を聞きながら、真剣に身を守るための訓練に取り組んだ。

2 被災地訪問 (6年) 【11月13日】



東日本大震災の様子及び復興に向けた取組について学ぶため、陸前高田市にある津波伝承館や震災遺構を見学した。

津波のもつエネルギーやその被害の大きさについて知るとともに、命の尊さについて学んだ児童は、真剣な顔で説明に聞き入っていた。

<児童の感想>

- ・語り部さんが語る言葉に重みがあって、津波の恐ろしさ、地震の強さを感じました。復興に向かって陸前高田を見て、自分の身は自分で守ることを、避難訓練やいざというときに意識したいなと思いました。僕の地域の築川は、いつ洪水が起こるかわかりません。そのために、ハザードマップを確認し、備えておく必要があります。命はかけがいのない宝物です。陸前高田の悲しみや苦しみを受け止めて、命を大切にしていきたいと思います。
- ・陸前高田市に行って、パンフレットに書いてある通り、命を守り、海と大地と共に生きることが大事だと思いました。沿岸の周りは津波とかがあって怖いけど、その分いいこともあると思うし、震災が表立っているけど、今の状態になるまで頑張ってきた人たちもいることを忘れてはならないと思いました。

3 3D都市データを活用した防災教育（6年）

【11月17日】

岩手河川国道事務所と東北工業大学が連携し『キッズ向けさいがいMAP』を用いた防災教育を中学校区3校で行った。

『キッズ向けさいがいMAP』は、ゲームソフトの「マイクラフト」と「3D都市データ」と「浸水想定区域図」を組み合わせて、自分が住んでいる街が浸水した仮想空間を再現したもので、その中をPC上で自由に散策し、自分が住んでいる街の浸水危険度やハザードマップを正しく理解し、防災に対する知識の向上を目指すことをねらいに取り組んだ。



初めに、東北工業大学 小野桂介講師より、授業全体の説明があった。その後、2次元のマップ（ハザードマップ）で自分の学校の周りで予想される最大の浸水の深さを調べた。



次に、二人組で「マイクラフト」のマップで学校の周りだけでなく、近隣の学校やスーパーなどの周りも散策し、どれほど浸水するか調べた。

最後に、2次元の洪水マップとマイクラフトの洪水マップを比べ、浸水の深さがわかりやすいのはどちらかを確認した。

これらの活動を通じ、児童は自分が住んでいる街の危険個所をとらえることができた。



Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 一連の取組を通じ、児童は命の尊さについて、今一度深く考え、自他の命や安全を守ることの意識を高めることができた。
- (2) 保護者への引渡し訓練は、初めての取組であったが、大きな混乱なく実施することができた。緊急時、児童を安全に帰宅させるための行動の仕方について確認することができた。
- (3) 東日本大震災の被災地である陸前高田市を訪問し、実際に被害の様子を見たり、語り部の話を聞いたりしたことで、児童は震災当時の様子や復興に向けた取組について理解を深めることができた。
- (4) 『キッズ向けさいがいMAP』を活用した授業では、児童が普段遊んでいるゲームソフトを使うことで、楽しみながら自分の住む街の浸水危険度を調べることができた。

2 課題

- (1) 緊急時引渡し訓練では、当日、不参加になる保護者が多かったためメール配信のない人の迎えが多かった。訓練の目的を保護者と共有し、万が一の場合の行動の仕方を確認できるようにしたい。また、今後は中学校区内の学校が連携した引渡し訓練を実施し、地域と学校が一体となった取組を推進していく必要がある。
- (2) 『キッズ向けさいがいMAP』を活用した授業を通して分かったことを他学年や地域に発信していく方法を考えていきたい。
- (3) 命を守ることの大切さは、引き続き全教育活動を通じ、本校の主要課題として、日常的に取り組んでいきたい。